

# 地域連携だより 第23号

2012.8



## 症例報告

007

皮膚科 池川 歩美 医師

「痛風結節を認め高尿酸血症と  
高脂血症の診断に到った例」

【現病歴】 77才、女性。2011年12月頃から手の指に白いぶつぶつが増えてきた。最近、痛みも伴うようになってきたため受診。

【既往歴】 アルツハイマー病、糖尿病、高血圧症など

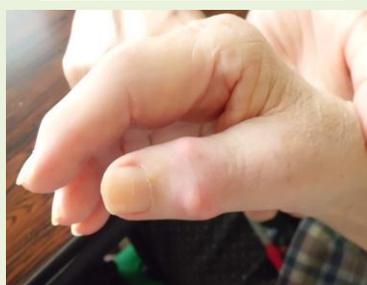
【現 症】 右第1指のIP関節、右第4, 5指のDIP関節などの関節伸側に、結節が散在、被覆表皮は薄く、その下は黄白色。右第1指、左第2指の指腹には自壊した白色チョーク状の物質を認める。周囲は発赤、やや腫脹しており、圧迫により疼痛を認める。

血液検査結果：表参照。 診 断：痛風結節

総蛋白	7.4	クレアチニン	1.24 H	血糖	143 H
アルブミン	3.3 L	尿酸	15.6 H	CPR	5.05 H
GOT(AST)	17	中性脂肪	347 H	白血球数	10800 H
GPT(ALT)	12	総コレステロール	247 H	赤血球数	320 L
γ-GTP	26	Na	140	ヘモグロビン	9.4 L
ALP	240	K	3.6	ヘマトクリット	29.7 L
LDH	261 H	CL	90 L	血小板数	26.0
尿素窒素	55 H				

【考 察】痛風結節とは、高尿酸血症に伴って、真皮内に尿酸塩が沈着して出現する硬い皮内結節である。手指や外来刺激を受けやすい部位に好発する。痛風結節の出現は血清尿酸値とは必ずしも平行しないといわれている。結節内には尿酸塩が多量に沈着し、排出されると白色チョーク状を示す。

一般に高尿酸血症は軽度では自覚症状がないことも多いが、痛風結節、痛風発作などを機に発見された場合は適切な治療を開始することにより、合併症である尿路結石、腎機能障害などを予防することができる。また、本症例でも認めたように、高脂血症などを合併することもあり、痛風結節を認めた時には、これらも併せて血液検査で確認することが重要であると考えた。



## [TOPICS]

「地域連携だより」23号の「症例報告」は、第7弾 皮膚科の池川 歩美医師です。



当院の皮膚科は常勤医師1名非常勤医師1名で、1日30-50人程度の外来患者様を診察しています。

皮膚病は、アトピー性皮膚炎や蕁麻疹などのアレルギー、乾癬など慢性の皮膚病、水虫・ヘルペス・とびひなどの感染症、悪性黒色腫などの皮膚ガンなど多くの種類があります。

当科では総合病院の長所を生かして、外科や内科、小児科などの他の科とも協力して治療を進めています。

より高度な検査・治療が必要な場合、また入院が必要な場合は、京都府立医科大学皮膚科などとも連携し対応しています。

なお、当院の性格上、いわゆる美容を第一に考える医療は積極的には行っていませんが、切除の必要のあるものについては見た目の問題も十分に配慮して治療を選択します。

また、在宅療養等の高齢者様の褥瘡治療につきましては、入院治療は行っておりませんが、外来で治療をしています。

当科は京都府立医科大学附属病院皮膚科、同医局関連病院などと連携し診療をしています。

皮膚疾患でお困りのことがございましたら、地域連携室にご連絡の上ご相談いただきますようよろしくお願いいたします。

## [当院で行う化学療法] 臨床薬剤部

専門的で充実した抗がん剤治療を提供するために、田辺中央病院は平成24年1月30日に外来化学療法室を開設しました。臨床薬剤部は、がん化学療法に積極的に関与して、患者に有効で安全な医療を受けていただけるよう努めています。

### レジメンの登録・管理

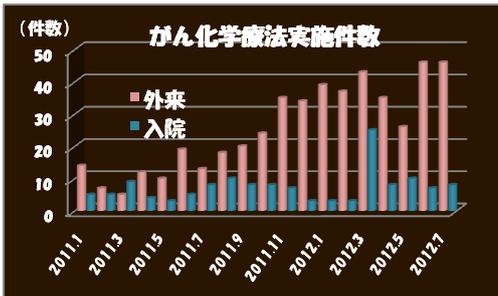
臨床薬剤部はレジメン管理委員会の事務局として院内すべてのレジメンを一元管理しています。

### 治療薬説明

薬剤師は治療開始前から患者様に薬剤の効果やスケジュール、副作用や注意事項の説明を行い、治療中においても効果や副作用のモニタリングをしています。

### 薬剤準備・無菌調製

治療の前日までに薬剤の準備を行い、治療当日は患者様の状態を確認した後、安全キャビネット内で無菌的に注射用抗がん剤の調製を行っています。投薬歴や処方監査などは複数の薬剤師により厳重にチェックしています。



※がん化学療法実施件数(2011.1~2012.7)



※臨床薬剤部スタッフ



※化学療法中の薬剤指導



※無菌製剤室



※化学療法室

### 情報の共有化

薬剤師は必要に応じて、医師に対し、エビデンスに基づいた標準治療の情報提供や、薬剤の投与量、支持療法について提案を行っています。また他の医療スタッフに対して、薬剤情報提供を行い教育活動に参加しています。

TC (ワンタキテール+エンドキサン) 療法を受けられる患者さまへ

※TC (ワンタキテール+エンドキサン) 療法で変わるお薬

ワンタキテール (一般名: ドセタセキル) : がん細胞の増殖を抑えます。  
 エンドキサン (一般名: シクロホスファミド) : がん細胞の増殖を抑えます。  
 ※上記お薬無効の場合は変更する場合があります。

※TC (ワンタキテール+エンドキサン) 療法のスケジュール

3週間ごとに、ワンタキテール+エンドキサンの治療をします。21日間は1クールとして4日お休みします。お薬を飲むのはお薬の日に限っていただきます。

※お薬の服用方法について注意したいこと

ワンタキテールは水で飲むのではなく、アルコールを混ぜて飲まれます。アルコールを混ぜる方法はお薬の日に必ずご確認ください。また、お薬の服用後はお薬の副作用も必ずご確認ください。

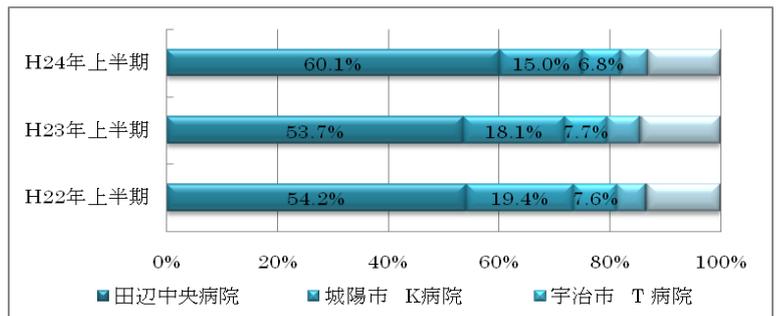
※お薬の副作用について注意したいこと

ワンタキテールは水で飲むのではなく、アルコールを混ぜて飲まれます。アルコールを混ぜる方法はお薬の日に必ずご確認ください。また、お薬の服用後はお薬の副作用も必ずご確認ください。

薬名	お薬の名称	お薬の服用	お薬の方法	お薬の時間
①	ワンタキテール	1日1回	点滴	約30分
②	エンドキサン	1日1回	点滴	約60分
③	ワンタキテール	1日1回	点滴	約30分

## 地域における当院の救急搬入件数報告 2012年上半期

H24年上半期は京田辺市消防からの救急搬入件数が60%を超えました。現在、緊急手術中や入院ベッド満床などの諸事情により、やむを得ず受け入れ出来ない場合がございます。今後、ますます需要が増加する地域の救急医療に貢献するため、ハード、ソフトの両面からさらに努力して参りますので、ご協力ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。



田辺中央病院 地域医療連携室

直通 TEL/FAX 0774-64-0444

診療時間中は地域連携室にご連絡を、夜間休日は当直事務員が電話対応させていただきます。

患者様が来院される際はできるだけ詳しい情報提供をお送りくださいますようお願いいたします。

緊急時は、FAXも結構でございます。地域医療連携室から紹介患者様の「ご来院報告」をFAXでお送りしています。

担当医師からは治療方針等が確定次第、情報FAX若しくは「ご報告書」を郵送して、ご紹介患者様の状況をお伝えしております。急性期治療を終わられましたら、再び、かかりつけの先生方へはもちろん、地域の先生方に「逆紹介」を積極的に行わせていただいております。

発行：田辺中央病院 地域医療連携室

住所：〒610-0334 京都府京田辺市田辺中央 6-1-6

(直通) TEL・FAX 0774-64-0444

(代表) TEL0774-63-1111・FAX0774-63-2363

Eメール: chiren@sekifetsukai.or.jp